

診断の方法論検討及び効果検証に係る 分科会(第一分科会)からの最終報告

1. 地域試行実施事業における結果の確認

1-1 地域別試行実施の結果の確認

1-2 目的別の結果の確認

- ① 気候区分ごとのうちエコ診断実施効果の確認
- ② 今後の診断の参考となる対策の確認
- ③ 診断員属性別の診断実績及び効果の確認

2. 次年度に向けた展開方針の確認

2-1 うちエコ診断の展開方針

2-2 目的別の方針の確認

- ① 事業運用負荷軽減のための診断手続きの一部Web化について
- ② 受診者層拡大に向けた診断設定時間の多様化について
- ③ 最新技術の取り込みに向けた制度検討について
- ④ 環境コンシェルジュ制度に向けた診断員の養成方針の確認

3. 第一分科会における成果のとりまとめ

1. 地域試行実施事業における結果の確認

1-1 地域別試行実施の結果の確認

1-2 目的別の結果の確認

- ① 気候区分ごとのうちエコ診断実施効果の確認
- ② 今後の診断の参考となる対策の確認
- ③ 診断員属性別の診断実績及び効果の確認

1-1. ①地域別試行で実施した効果確認方針

- うちエコ診断の目的は、家庭部門からのCO2排出量の削減を進めるために、受診世帯に対して実効性のある(実施できる)削減対策を提案するとともに、うちエコ診断を通じて実施率が高い(実施しやすい)ことが判明した削減対策を、受診世帯以外に対しても情報提供していくことである。
- この目的の達成に向けて、本年度事業における地域別試行実施では、その実施効果をまとめるにあたって、診断の実効性の観点から、以下の項目について検証する。

①対策実施率の検証

- 気候区分別に提案された対策項目とその効果(提案対策の実施率、削減量等)を検証し、ソフトの改修に役立つ情報を整理する。(地域別)
- 受診世帯の属性(世帯人数等)による実施率の傾向分析を行い、次年度以降の診断ガイドライン等の策定に役立つ情報を整理する。
- 次年度以降の診断員の養成に資するため、診断員の属性ごとの提案項目とその効果について分析する。(診断員別)

②受診世帯の満足度の分析

- 次年度以降の診断手法の改善、対策提案の改善、受診世帯数の増大に繋げることを目的に、満足度と関連性の強い対策提案や診断員の属性等の傾向を分析する。

1. うちエコ診断結果データの関連

A. 受診世帯別診断結果データ

- ・受診世帯ID
- ・診断員ID
- ・事前アンケートの内容(気候区分、世帯人数、住居属性、戸建て/集合、持家/賃貸)
- ・提案項目および削減ポテンシャル(kg/年)
- ・選択した提案項目および削減ポテンシャル(kg/年)
- ・選択した提案項目による節約金額(円/年)
- ・診断に要した時間
- ・うちエコ診断時の提案項目およびその削減量(kg/年)
- ・選択した提案項目およびその削減量(kg/年)
- ・各項目の実施の有無(すでに実行、近く実施予定)

目的変数

- ① 診断時のソフトによるCO2推定排出量(以下「推定削減量」)(kg/年)
- ② 対策提案数および提案時CO2みなし削減量(kg/年)(以下、提案みなし削減量)
- ③ 対策選択数および選択みなし削減量(kg/年)
- ④ 対策実施数および実施みなし削減量(kg/年)
- ⑤ 選択率(③/②)
- ⑥ 実施率(④/⑤)

説明変数

<気候属性>

- ① 気候区分※

<受診世帯属性>

- ① 世帯人数
- ② 診断方法
- ③ 都市部、郊外部※
- ④ 一戸建て/集合
- ⑤ 持家/賃貸
- ⑥ 建築年代
- ⑦ 延床面積
- ⑧ 収入(HEMS解析結果より)

<受診世帯満足度>

- ① 診断員説明理解度
- ② 分析項目に応じて

<診断員>

- ① 年齢
- ② 職業

B. 受診世帯属性データ

- ・受診世帯ID
- ・受診者年齢(〇歳代)
- ・世帯人数
- ・郵便番号
- ・自宅住所
- ・診断方法(訪問、窓口、会場)

C. 受診世帯満足度データ

- ・受診世帯ID
- ・診断員ID
- ・受診前のうちエコ診断への期待度
- ・受診前の印象(役に立つ等)
- ・事前調査表の項目数について
- ・回答が困難な調査項目
- ・受診時の理解度
- ・役に立つ診断ソフト画面
- ・受ける前と後の印象

D. 診断員属性データ

- ・診断員ID
- ・年齢
- ・性別
- ・職業(団体職員、公務員等)
- ・地球温暖化防止推進(ON/OFF)

※資料末の<参考>で補足

1-1. ②分析の流れ

①. 気候区分ごとのうちエコ診断実施効果の把握

a. 気候区分別の対策実施率の比較

b. 気候区分別に特有な対策項目の比較

c. 気候区分に共通な対策項目の比較

②. 今後の診断の参考となる対策の検証

a. 実施件数の多い対策の把握と受診世帯属性との関連

b. 未実施対策における理由の確認

③. 診断員属性別の診断実績及び効果の検証

a. 受診世帯満足度別の診断員実施件数の比較

b. 対策実施率・満足度が高い診断員属性の把握

c. 診断員要件の抽出

実施率

満足度

1-1. ③実施率の定義と活用のイメージ

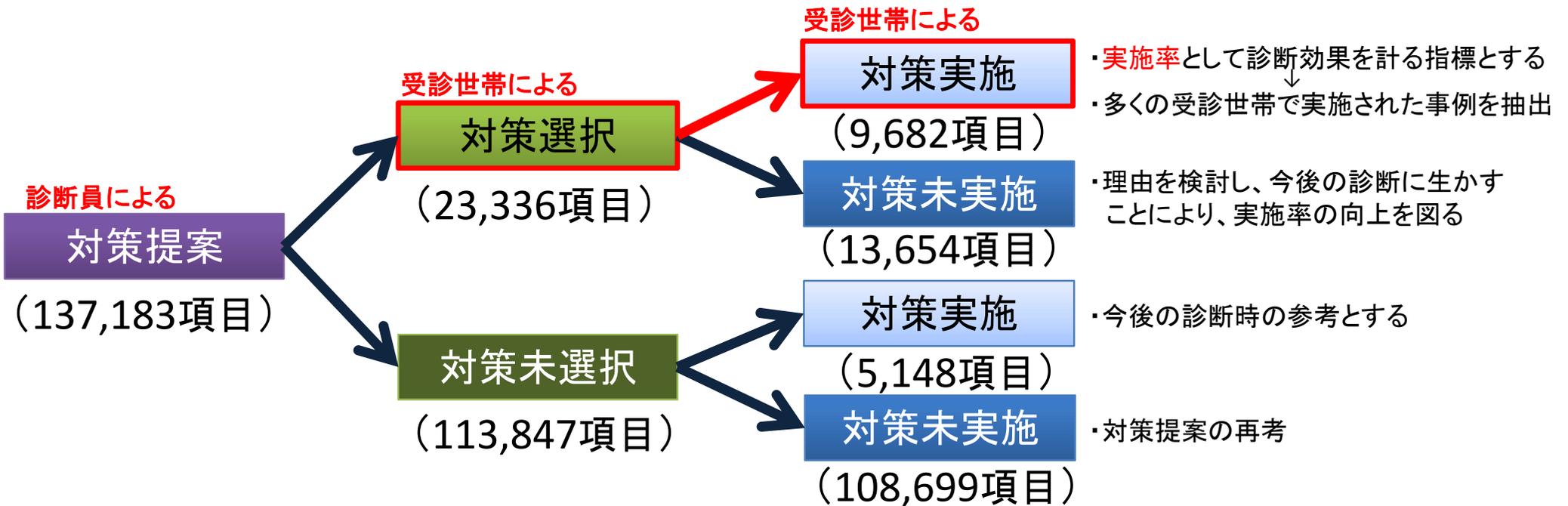
うちエコ診断により提案した対策の実施率の定義

うちエコ診断時における診断員による対策の提案と、提案した対策の選択状況



うちエコ診断実施後の実施状況

活用のイメージ



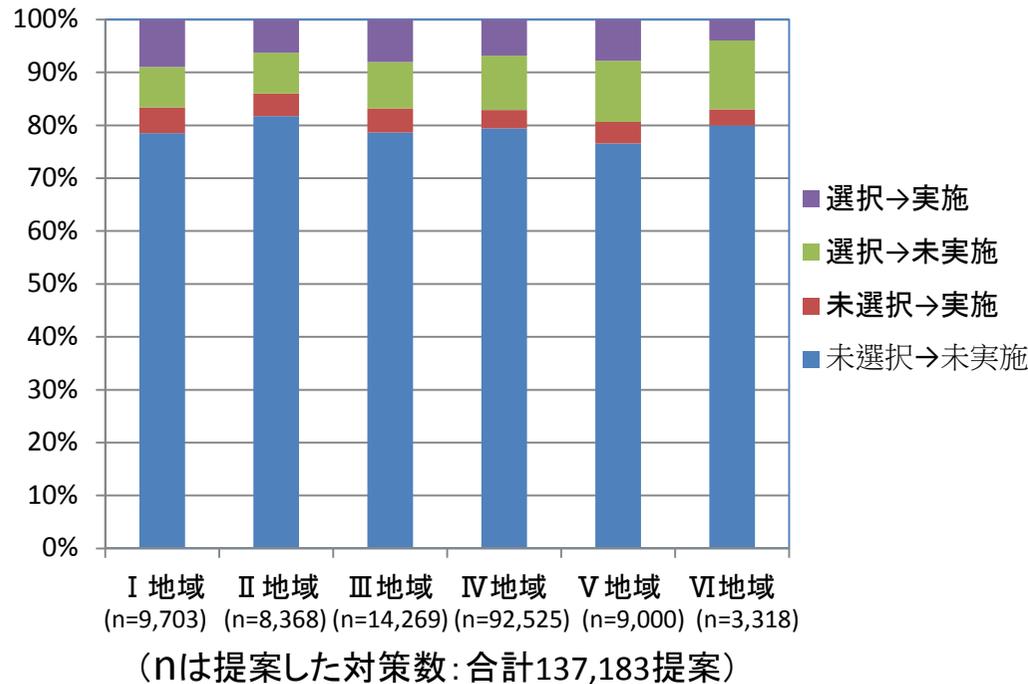
$$\text{実施率} = \frac{\text{対策実施 された項目数}}{\text{対策選択 された項目数}} = \frac{9,682\text{項目}}{23,336\text{項目}} = \text{約}41\% \text{ (全国平均)}$$

1-2. ①気候区分ごとのうちエコ診断実施効果の確認

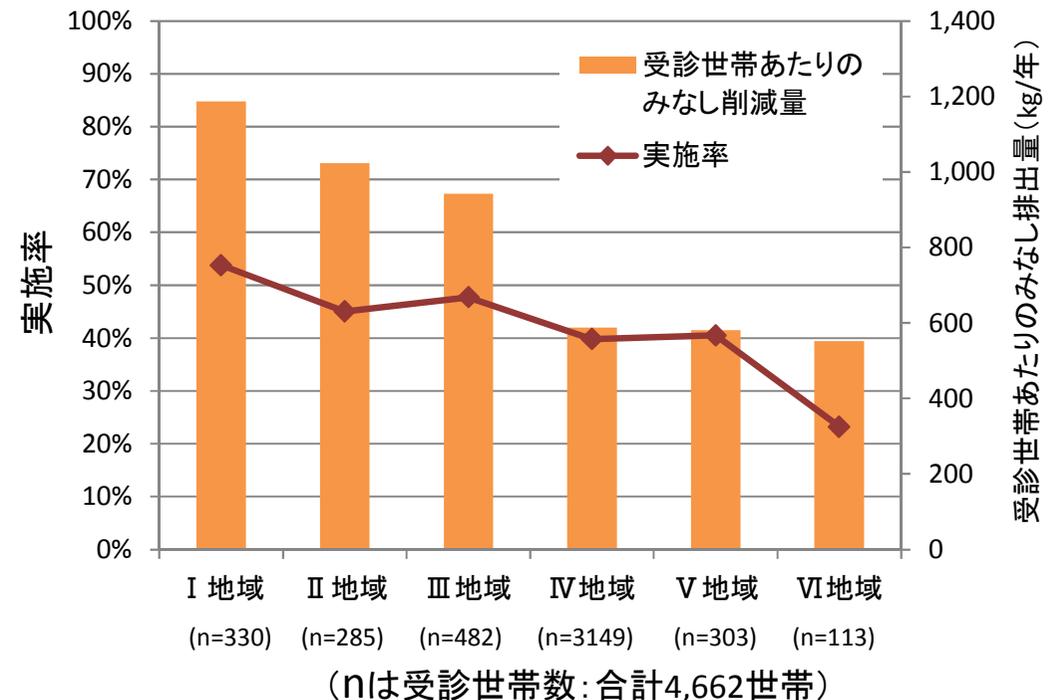
a. 気候区分別の対策実施率の比較

- ・地域診断として全国で実施された4,662件の診断において、診断の際に提案された項目（137,183件の全提案）に対して受診世帯による選択および実施の状況を下図（左）に示す。
- ・また、下図（左）において、受診世帯が選択した項目（■および■）と、選択されたもののうち実行された項目（■）から求めた実施率と、受診世帯あたりのみなし削減量を示したものを下図（右）に示す。

診断で提案された対策受診世帯による選択/実施の状況



実施率と受診世帯あたりのみなし削減量



1-2. ①気候区分ごとのうちエコ診断実施効果の確認

b. 気候区分別に特有な対策項目の比較

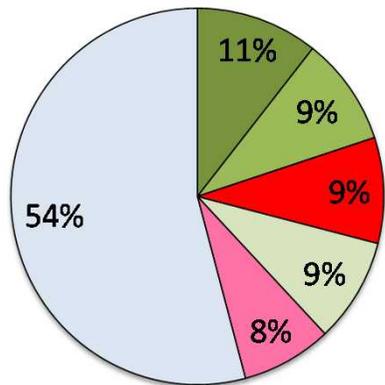
・実施された対策数(9,682件)の割合を各気候区分ごとにみると、気候区分ごとの上位5位までの実施された対策数の割合は、いずれの気候区分においても、おおよそ4~5割を占めている。また、いずれもライフスタイルによる提案であり、受診世帯にとって受け入れやすい対策ということができる。

気候区分別の実施された対策数の割合(上位5位までとその他)

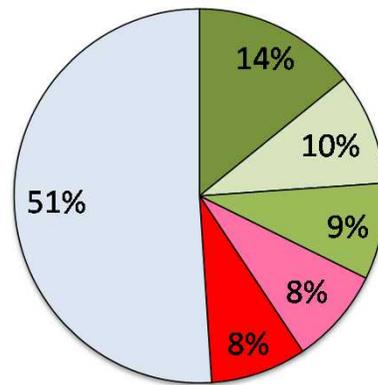
I 地域 (n=868)

II 地域 (n=527)

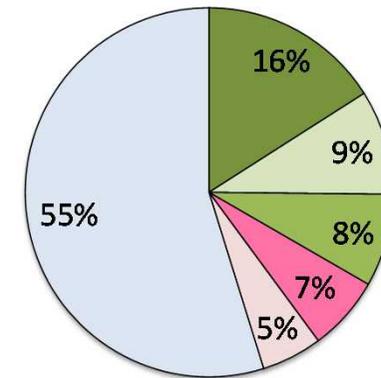
III 地域 (n=1144)



- アイドリングストップなどエコドライブに心がける
- 節水シャワーヘッドを取り付けて利用する
- 暖房の設定温度を控えるにする
- シャワーを使う時間を1人1日1分短くする
- 1部屋目で暖房をする時間を1時間短くする
- 上位6位以下の対策



- アイドリングストップなどエコドライブに心がける
- シャワーを使う時間を1人1日1分短くする
- 節水シャワーヘッドを取り付けて利用する
- 1部屋目で暖房をする時間を1時間短くする
- 暖房の設定温度を控えるにする
- 上位6位以下の対策

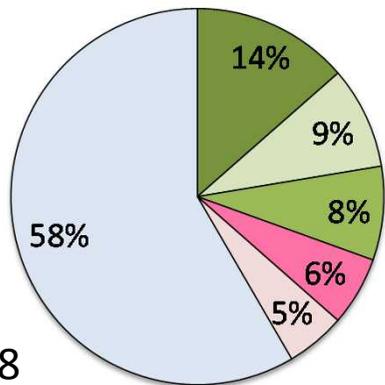


- アイドリングストップなどエコドライブに心がける
- シャワーを使う時間を1人1日1分短くする
- 節水シャワーヘッドを取り付けて利用する
- 1部屋目で暖房をする時間を1時間短くする
- 家族だんらんで1部屋で過ごすようにする
- 上位6位以下の対策

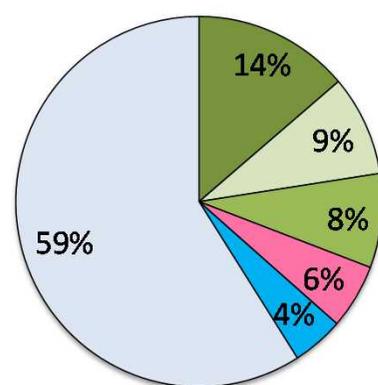
IV 地域 (n=6307)

V 地域 (n=705)

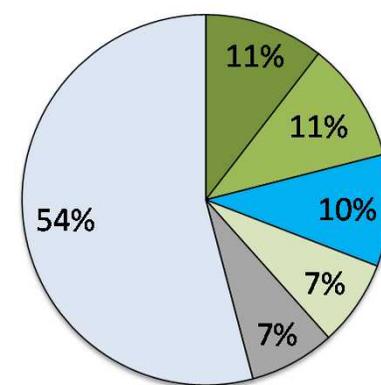
VI 地域 (n=131)



- アイドリングストップなどエコドライブに心がける
- シャワーを使う時間を1人1日1分短くする
- 節水シャワーヘッドを取り付けて利用する
- 1部屋目で暖房をする時間を1時間短くする
- 家族だんらんで1部屋で過ごすようにする
- 上位6位以下の対策



- アイドリングストップなどエコドライブに心がける
- シャワーを使う時間を1人1日1分短くする
- 節水シャワーヘッドを取り付けて利用する
- 1部屋目で暖房をする時間を1時間短くする
- 1部屋目の冷房で、扇風機を使いエアコンを止める
- 上位6位以下の対策

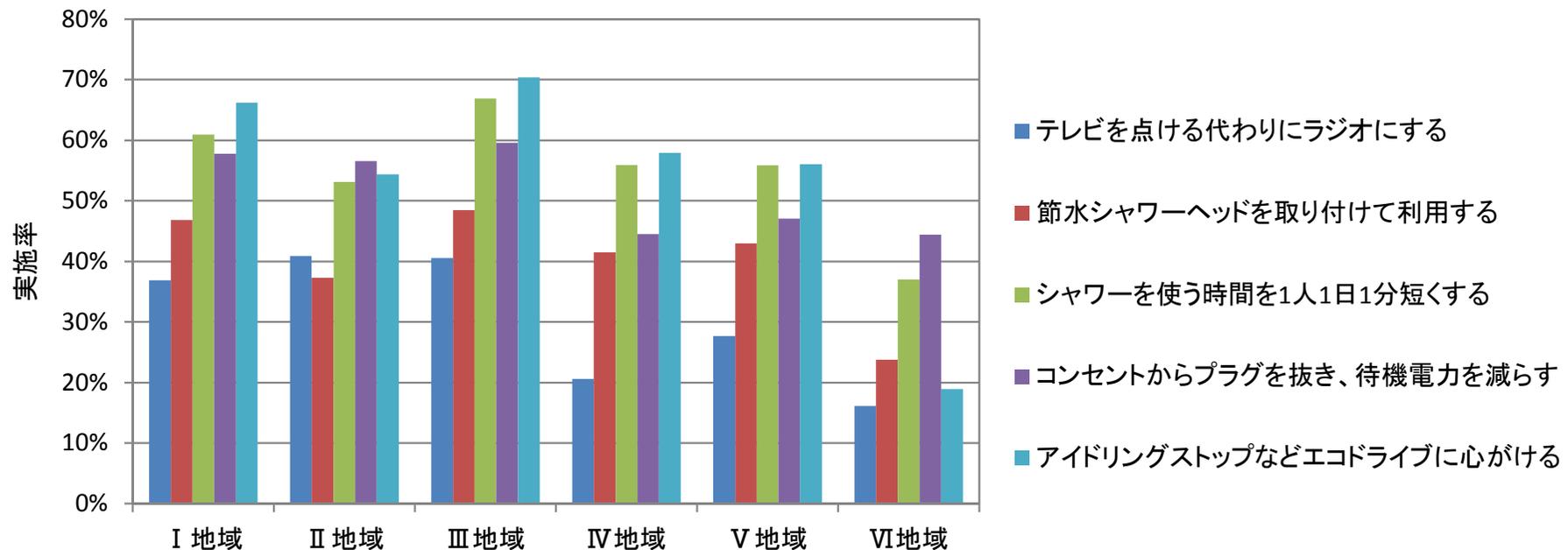


- アイドリングストップなどエコドライブに心がける
- 節水シャワーヘッドを取り付けて利用する
- 1部屋目の冷房で、扇風機を使いエアコンを止める
- シャワーを使う時間を1人1日1分短くする
- テレビを点ける代わりにラジオにする
- 上位6位以下の対策

1-2. ①気候区分ごとのうちエコ診断実施効果の確認

c. 気候区分に共通な対策項目の比較

- ・前項b.において、地域別の対策項目を概観すると、地域に依存する対策（主に冷暖房）と全地域共通な対策項目に大別される。
- ・そこで、ここでは地域に共通な対策項目として、p12に示した3つの共通対策に加えて、5位以下から次に対策数の多かった「テレビからラジオへの代替」および「待機電力を減らす」を加えた5つの対策について実施率を比較し、今後の診断においての方向性を検討した。
- ・下図によれば、VI地域において、抽出した対策においては、全体的な実施率が20%低く、「アイドリングストップなどのエコドライブに心がける」の対策の実施率が低くなっているものの、ずれの地域も同様な実施率の分布となっている。
- ・本年度のうちエコ診断の対策の実施率の平均値（41%）と比較すると、おおよそ平均値程度またはそれ以上の実施率となっている。（IV・V地域のテレビ→ラジオが低い）

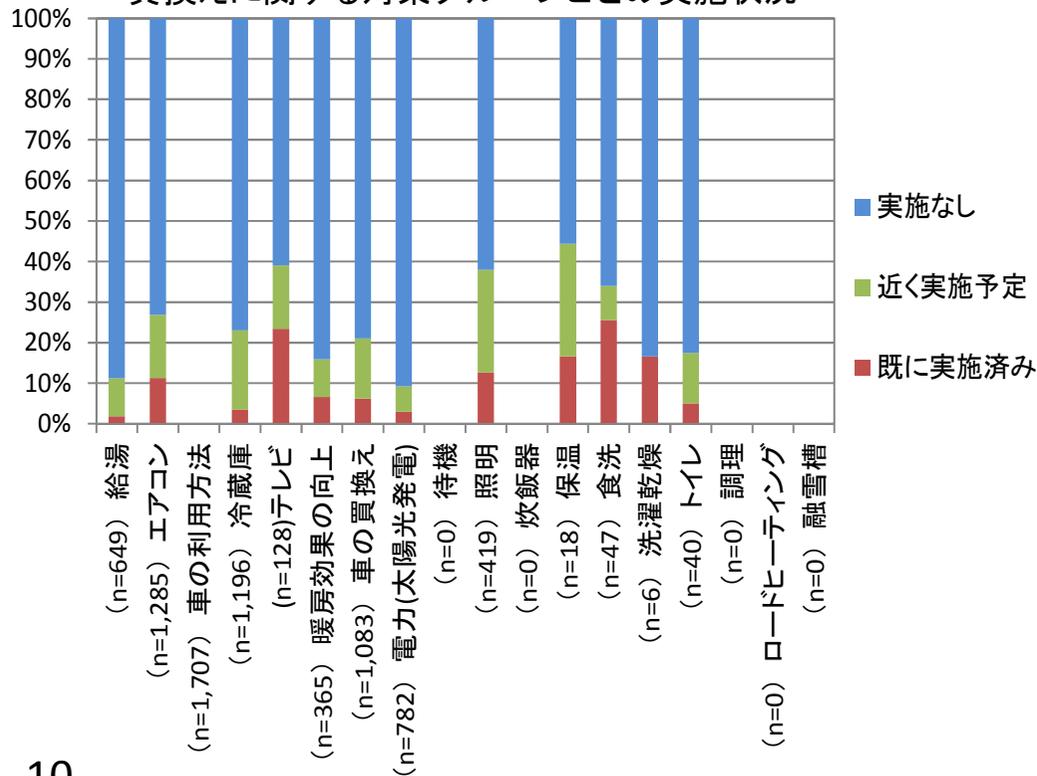


1-2. ② 今後の診断に参考となる対策の検証

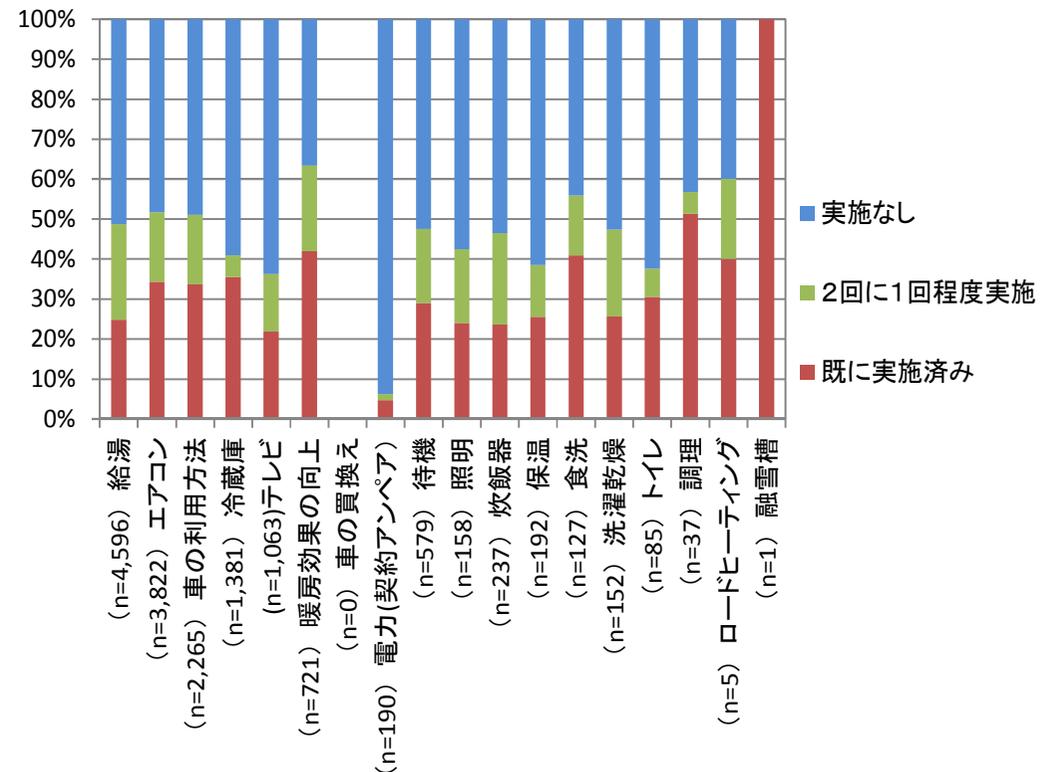
a-1. 実施件数の多い対策の把握と受診世帯属性との関連

- ・実施された対策の実施状況を把握するために、選択された対策(23,336件)に対して、買換えと行動変容に区分したのち、下図のように対策グループごとの実施状況を把握した。
- ・下図において、nは対策グループごとの選択数を示しており、下図の100%積み上げグラフは、この対策グループごとの選択数(n)で正規化している。(グラフの並びは左から対策数(買換え+行動変容)の多い順)
- ・買替対策については、既に実施済み(■)と近く実施予定(■)、行動変容対策については、既に実施済み(■)と2回に1回実施(■)を合計したものを、対策グループごとの実施率としている。

買換えに関する対策グループごとの実施状況



行動変容に関する対策グループごとの実施状況

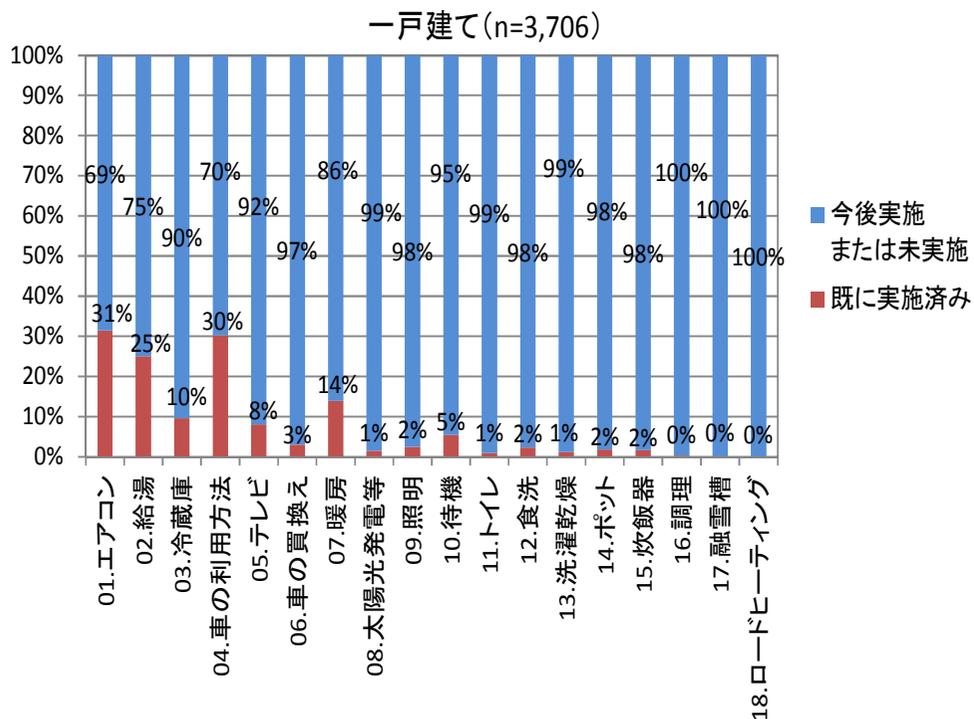


1-2. ② 今後の診断に参考となる対策の検証

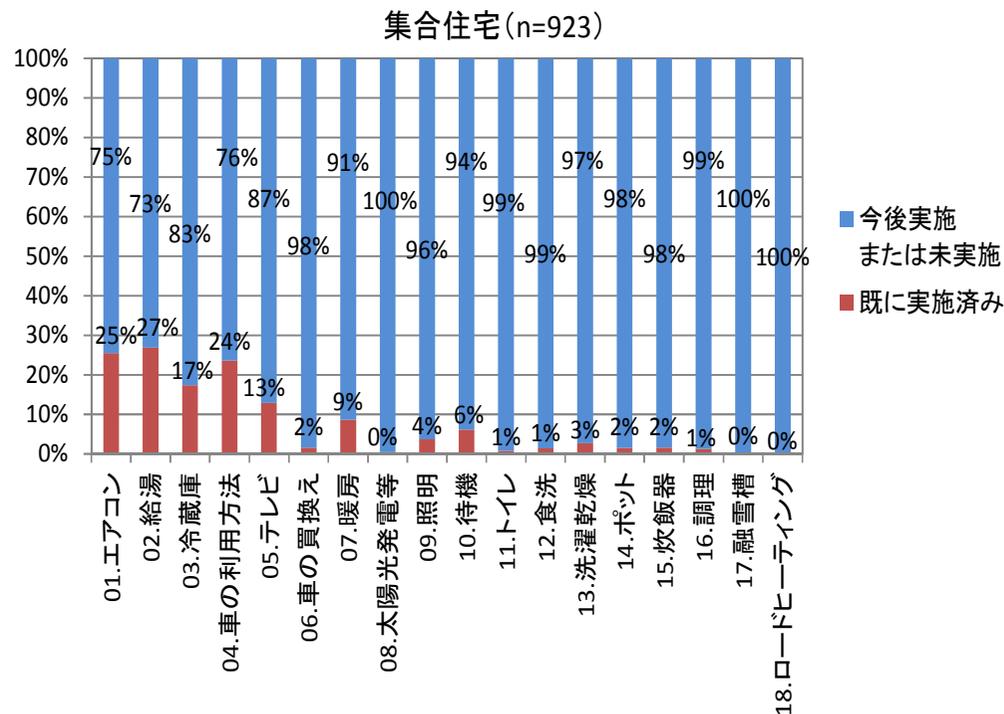
a-2. 実施件数の多い対策の把握と受診世帯属性との関連

- ・受診世帯属性ごとに実施された対策の実施状況を把握するために、受診世帯属性別に対策グループごとの実施状況を把握した。
- ・下図において、nは対策グループごとの選択数を示しており、下図の100%積み上げグラフは、この対策グループごとの受診世帯(n)で正規化している。(グラフの並びは左から対策数(買換え+行動変容)の多い順)
- ・今後、他の受診世帯属性についても同様の検証を行う。

一戸建て受診世帯における対策グループごとの実施状況



集合住宅受診世帯における対策グループごとの実施状況

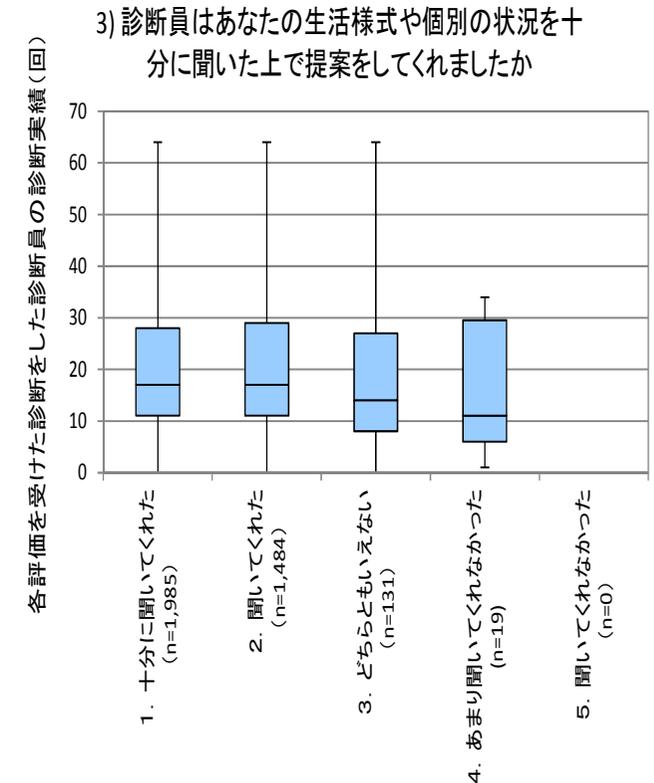
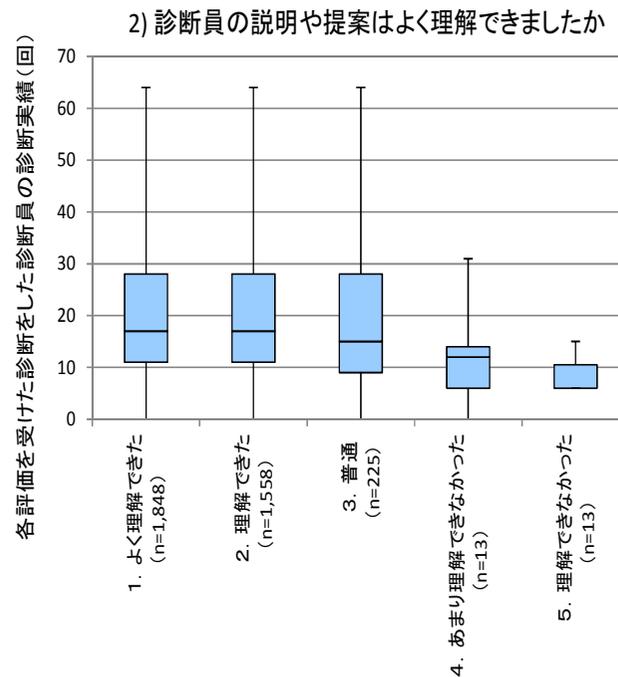
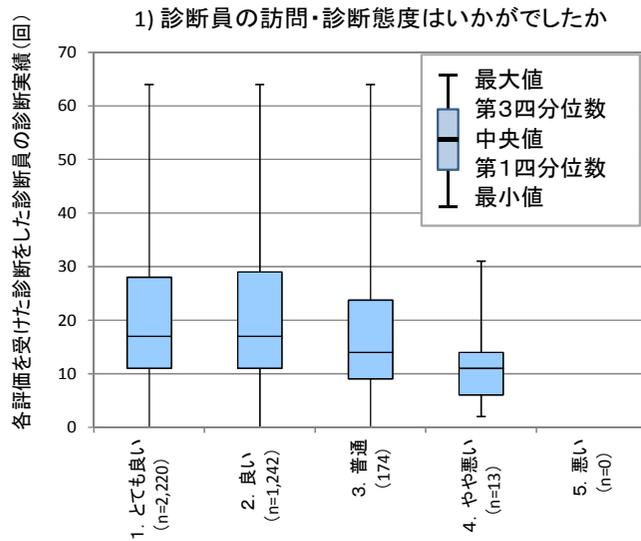


1-2. ③診断員属性別の診断実績及び効果の確認

a. 受診世帯満足度別の診断員実施件数の比較

- ・診断員の経験と受診世帯の満足度の関連を見るために、受診世帯への満足度調査の結果とその受診世帯を診断した診断員の診断実績(年間の診断回数)の関連を以下に示す。
- ・受診世帯への質問としては、診断を行った診断員の評価を問うものとして、以下の3問を聞いた。
- ・これらの質問結果(満足度)と各診断員の診断実績(年間の診断回数)との間には、いずれも良い評価の診断の時には、診断実績の多い診断員が診断を行っている傾向にある。

- 1) 診断員の訪問・診断態度はいかがでしたか？
- 2) 診断員の説明や提案はよく理解できましたか？
- 3) 診断員はあなたの生活様式や個別の状況を十分に聞いた上で提案をしてくれましたか？



1-2. ③診断員属性別の診断実績及び効果の確認

b. 対策実施率・満足度が高い診断員属性の把握

・満足度が高く、対策の実施率の高い受診者は、職業の差による傾向の違いが現れているが、診断件数などの要因の関連も考えられる。

満足度が高く、対策実施率も高い診断を行った診断員の属性(職業)の抽出

満足度が高い診断の抽出

今回診断を行った診断員の評価をお聞かせください。

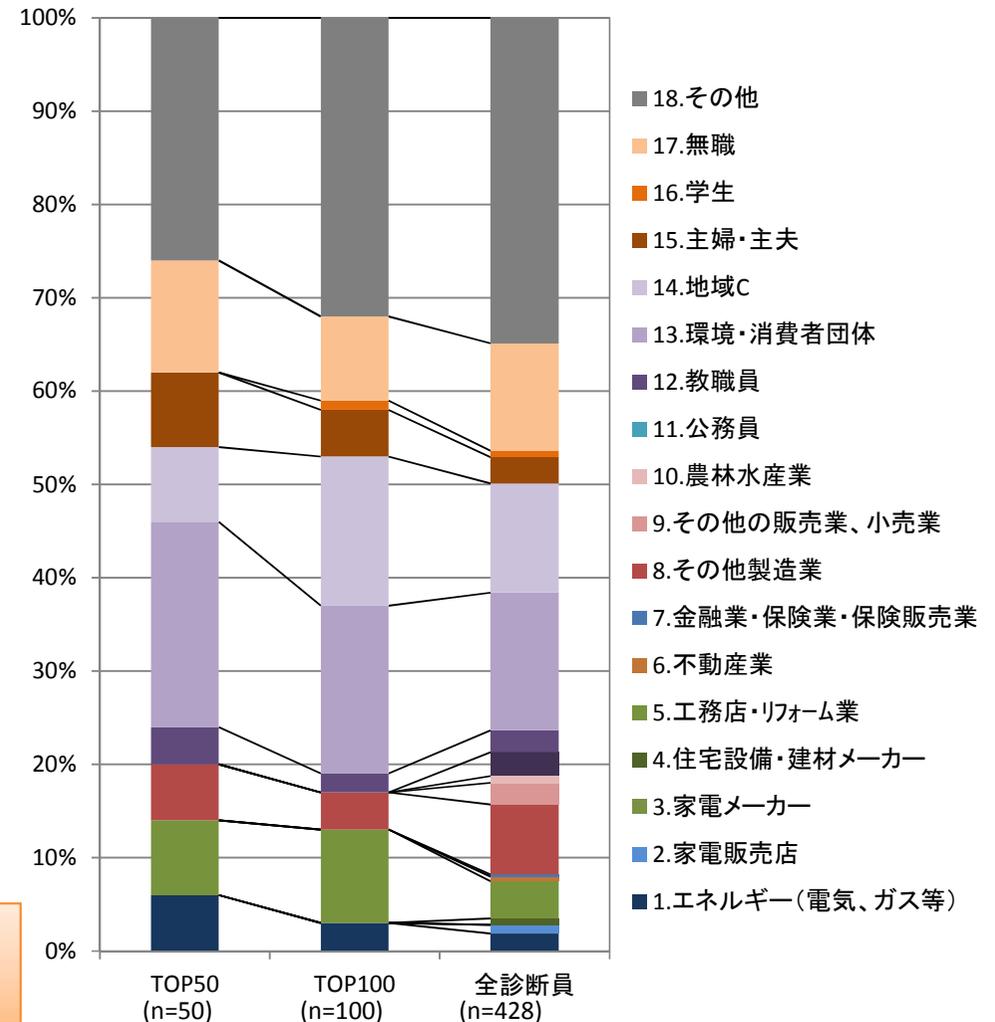
- 1) 診断員の訪問・診断態度はいかがでしたか？
- 2) 診断員の説明や提案はよく理解できましたか？
- 3) 診断員はあなたの生活様式や個別の状況を十分に聞いた上で提案をしてくれましたか？

4,352件(4,662件中上記の問いのみに回答があったもの)中、3問すべてに1(良い)の評価があった1,489世帯が対象

対策実施率の高い順に整理

全ての満足度が1(良い)で、対策実施率の高い順で、TOP50とTOP100および全診断員の職業の割合を比較した。

満足度が高く、対策実施率も高い診断を行った診断員の属性(職業)の割合



<参考> 地域事務局別診断実施件数

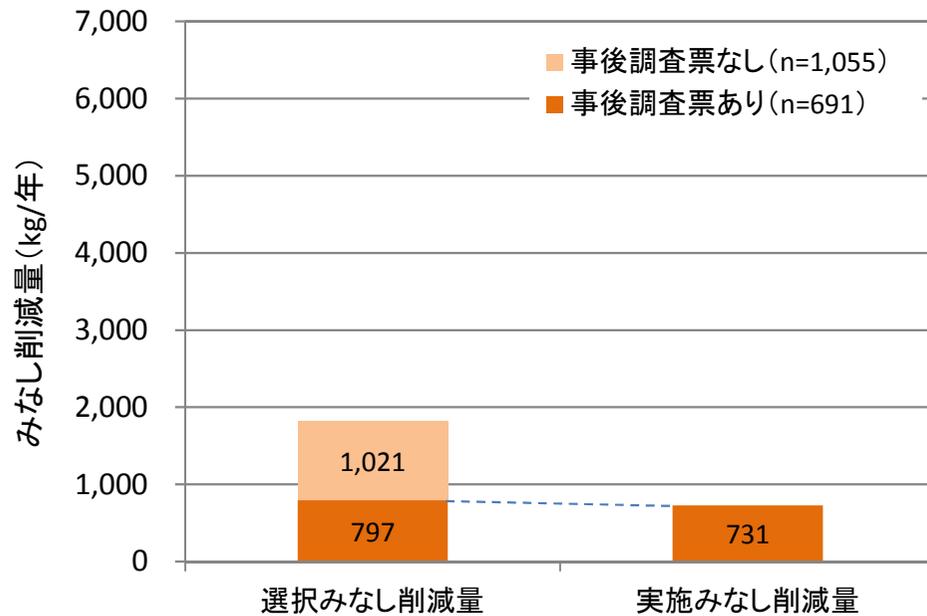
BLOCK 番号	幹事 事務局	地域 事務局	目標数	実施件数	
				合計	
BLOCK1	北海道	① 北海道	300	300	(100%)
BLOCK2	秋田市	① 青森県	100	101	(101%)
		② 岩手県	100	134	(134%)
		③ 宮城県	100	100	(100%)
		④ 秋田県	100	130	(130%)
		⑤ 山形県	100	116	(116%)
		⑥ 福島県	100	99	(99%)
		小計	600	680	(113%)
BLOCK3	埼玉県	① 茨城県	100	73	(73%)
		② 栃木県	100	50	(50%)
		③ 群馬県	100	93	(93%)
		④ 埼玉県	100	125	(125%)
		⑤ 新潟県	100	108	(108%)
		小計	500	449	(89%)
BLOCK4	静岡県	① 千葉県	100	42	(42%)
		② 神奈川県	100	39	(39%)
		③ 川崎市	100	38	(38%)
		④ 静岡県	100	100	(100%)
		小計	400	219	(54%)
BLOCK5	福井県	① 富山県	100	100	(100%)
		② 石川県	100	100	(100%)
		③ 福井県	100	99	(99%)
		④ 長野県	100	76	(76%)
		小計	400	375	(93%)

BLOCK 番号	幹事 事務局	地域 事務局	目標数	実施件数	
				合計	
BLOCK6	大阪府	① 滋賀県	150	170	(113%)
		② 京都府	150	191	(127%)
		③ 大阪府	150	200	(133%)
		④ 兵庫県	150	243	(162%)
		⑤ 奈良県	100	106	(106%)
		⑥ 和歌山県	100	96	(96%)
		小計	800	1,006	(125%)
BLOCK7	岡山県	① 島根県	100	124	(124%)
		② 鳥取県	100	124	(124%)
		③ 岡山県	100	136	(136%)
		④ 山口県	100	121	(121%)
		⑤ 香川県	100	118	(118%)
		⑥ 徳島県	100	102	(102%)
		⑦ 高知県	100	100	(100%)
小計	700	825	(117%)		
BLOCK8	鹿児島県	① 福岡県	100	119	(119%)
		② 佐賀県	100	100	(100%)
		③ 長崎県	100	88	(88%)
		④ 熊本県	100	128	(128%)
		⑤ 大分県	100	118	(118%)
		⑥ 鹿児島県	100	142	(142%)
		⑦ 沖縄県	100	113	(113%)
小計	700	808	(115%)		
合計			4,400	4,662	(105%)

<参考>. 本年度のうちエコ診断で得られたデータとその関連

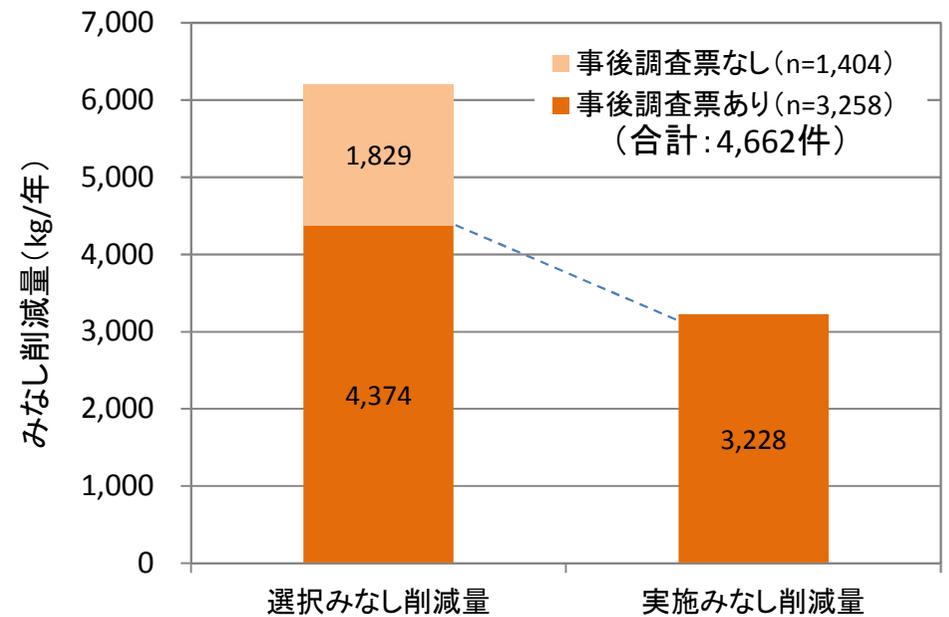
<みなし削減量の概要>

平成22年度うちエコ診断事業におけるみなし削減量



受診世帯あたりのみなし削減量
1,058kg/年/世帯

平成23年度うちエコ診断事業におけるみなし削減量



受診世帯あたりのみなし削減量
991kg/年/世帯

2. 次年度に向けた展開の方針

2-1 うちエコ診断の展開方針

2-2 目的別の方針の確認

- ① 事業運用負荷軽減のための診断手続きの一部Web化について
- ② 受診者層拡大に向けた診断設定時間の多様化について
- ③ 最新技術の取り込みに向けた制度検討について
- ④ 環境コンシェルジュ制度に向けた診断員の養成方針の確認

2-1 うちエコ診断の展開方針と実施方針について

本年度の試行結果を踏まえ、次年度では、受診者数の拡大として、実施形態ごとの課題に共通な3つの課題について後述し、加えて診断員数の拡大と質の確保についても、3つの研修形態を検討した。

次年度以降の展開方針

本年度の試行結果を踏まえた実施上の課題

うちエコ診断の展開

受診者数の拡大

地域試行実施

家庭に対する診断

企業の従業員に対する診断

民間企業等試行実施

削減可能性の高いと想定される顧客に対する診断

自社サービスの一貫として実施する診断

①手続きの効率化について
(受診世帯及び実施事務局の負担軽減)

①手続きの効率化について
(従業員および企業窓口の負担軽減)

②診断時間の多様化について
(診断時間が長いと敬遠される傾向)

①手続きの効率化について
(診断にかかるコスト削減)

②診断時間の多様化について
(診断時間が1時間で足りない場合もある)

③最新技術の反映について

診断員数の拡大と質の確保

④新人研修、フォローアップ研修、環境コンシェルジュ制度研修

2-2. ① 手続きの効率化について

手続きの効率化に関する要望と課題

<満足度調査からの要望と課題>

- ・申込プロセスを簡素化できないのか。
- ・書き込む書類が多すぎる。

<地域事務局アンケートからの要望と課題>

- ・診断の実施、実施後の提出物確認、アンケートの入力など、手続きが多く、非常に大変であった。
- ・事前アンケートから診断までのプロセスが多い。
- ・紙資料の郵送や電話連絡の手間が大きく、今後受診家庭が増える場合には対応が困難。
- ・診断員から診断結果、満足度調査の提出に時間がかかる方がいたので、手間取った。
- ・イベント参加者には診断内容が煩雑なことから敬遠された。
- ・事前アンケートの項目が多い。受診者にとって負担感がある。

<第二分科会からの課題>

- ・民間企業等で診断を展開していくために、診断の費用対効果が重要である。出来るだけコストを削減することが重要となる。



診断に係る手続きの効率化のため、手続きの一部をWEBで運用する。

2-2. ② 診断時間の多様化について

診断時間の問題についての要望と課題

<満足度調査からの要望>

- ・診断に時間がかかる。

<地域事務局アンケートからの要望と課題>

- ・本年度の地域実証では、一部の地域において事業者単位での受診の声掛けをしたが、事前アンケートへの回答、40分以上の診断時間というのがネックになり、多くの事業所に断られた。30分での診断を認めてほしい。

<民間試行実施した企業の最終報告会の説明からの要望>

- ・実際に診断をして、診断時間の簡略化は厳しいと感じた。リフォームに関わる面についても追加でご説明をすることもあった。また、顧客から診断内容と合わせて住宅の設計に付帯する質問も多く、診断に1時間はどうしても要してしまう。

診断時間を短縮した場合の効果と課題について検討が必要

従来の60分の診断に加えて、どのようなシーンで短時間(30分以下)の診断が望まれるか、効果を担保できるかを精査し、地域試行、民間試行、企業の従業員診断において試験的に導入して検証を行う。

2-2. ② 診断時間の多様化について

30分でうちエコ診断を実施した際、受診世帯、診断員から診断時の説明が十分にできない等の要望が多くあった。

現行のうちエコ診断の流れ(40分～60分)

診断ステップ (前図の番号)	主な診断内容(例)	対象画面
1 (診断準備) データの読み込み (診断開始) 挨拶	① ecoファイルの読み込み ② 身分の説明、事業の概要説明 ③ 診断の流れの説明	
2 事前アンケートの確認(②)	① 事前アンケートの入力に間違いがないか確認する ② 事前アンケートの回答のないところを再確認する ③ 受診者の環境意識の確認(相手の目線、レベルを理解する)	
3 事前アンケートの結果表示 (1)平均比較(③)	① 左グラフの構成(縦軸、横軸)の説明 ② 平均値との比較(平均値の説明) ③ 右グラフの構成(縦軸、横軸)の説明 ④ CO2排出順位の確認(順位の意味づけ)	
4 事前アンケートの結果表示 (2)目標設定(④)	① 「温暖化防止」に必要なライン(25%、50%、80%)と、現在の自分の「ポジション」との距離を知ってもらおう。おおよその節約金額なども参考に目標を設定 ② 受診者自身に目標を選んでいただく	
5 事前アンケートの結果表示 (3)内訳結果(⑤)	① 上位3項目程度については追加的に 情報収集する。(下位は深追いしない) ② 「その他」が20%を大幅に超える場合は、実態を突き止める(事前アンケートのデータの見直し等)	
6 個別の対策(1/2)(⑥) ・詳細情報入力画面 ・対策結果画面	① 内訳の多い分野や受診者の関心の高い分野を優先的に、分野別に詳細情報を入力し、分野別の対策を提案していく ② 事前アンケートで把握できない項目に対しても、コミュニケーションを取りながら、情報を追加していく	
7 個別の対策(2/2)(⑥) ・個別対策提案画面 ・初期費用回収画面	① 環境機器は、初期投資が割高でも トータルコストでは「得」な場合も少なくない。その点をわかりやすく伝える ② 元が取れるかどうかの試算を実施(あくまでも概算であることを説明)	
8 総合対策画面(⑦)	① 受診者とコミュニケーションをとりながら、一緒に実施可能な対策を考える ② CO2削減と、経済的効果(負担)の両方を勘案する ③ 目標達成にこだわりすぎない(大体達成できれば、それで「よし」とする)	
9 対策の一覧表示画面	① まとめて、一覧表をもとに、受診者に選択頂いた項目を振り返る ② 事後アンケートの協力をお願いする ③ この診断の感想を聞く	

(省略)

(省略)

(省略)

従業員診断実施における診断の流れ(20分～30分)

診断ステップ (前図の番号)	主な診断内容(例)	対象画面
1 (診断準備) データの読み込み (診断開始) 挨拶	① ecoファイルの読み込み ② 身分の説明、事業の概要説明 ③ 診断の流れの説明	
2 事前アンケートの確認(②)	① 事前アンケートの入力に間違いがないか確認する ② 事前アンケートの回答のないところを再確認する ③ 受診者の環境意識の確認(相手の目線、レベルを理解する)	
3 事前アンケートの結果表示 (1)平均比較(③)	① 左グラフの構成(縦軸、横軸)の説明 ② 平均値との比較(平均値の説明) ③ 右グラフの構成(縦軸、横軸)の説明 ④ CO2排出順位の確認(順位の意味づけ)	
4 事前アンケートの結果表示 (3)内訳結果(⑤)	① 上位3項目程度については追加的に 情報収集する。(下位は深追いしない) ② 「その他」が20%を大幅に超える場合は、実態を突き止める(事前アンケートのデータの見直し等)	
8 総合対策画面(⑦)	① 受診者とコミュニケーションをとりながら、一緒に実施可能な対策を考える ② CO2削減と、経済的効果(負担)の両方を勘案する ③ 目標達成にこだわりすぎない(大体達成できれば、それで「よし」とする)	
9 対策の一覧表示画面	① まとめて、一覧表をもとに、受診者に選択頂いた項目を振り返る ② 事後アンケートの協力をお願いする ③ この診断の感想を聞く	

<受診事業者からの要望>

- ・受診時間を1時間程度に拡大してほしい。
- ・よりコンパクトな診断を実施してほしい。

<受診者からの要望>

- ・診断時の診断員からの説明が十分でなく、書面での追加の説明を求められた。

<診断員からの課題>

- ・診断時に受診者と十分にコミュニケーションがとれないとの指摘が多くあった。

2-2. ③ 最新技術の反映について

最新技術の反映についての要望

<地域事務局アンケートからの要望>

地域の実態に応じて、受診者向けの選択メニューを追加できる機能が必要ではないか。

<第二分科会の委員>

うちエコ診断となる診断ソフトへの新たな対策技術等の反映については、排出原単位の検証も含めて、民間企業等からの提案が行えるような枠組みが必要ではないか。



次年度において、排出原単位の検証も含めて枠組みの検討を行う。

2-2. ④ 次年度における診断員の養成方針について

平成24年度の検証内容

- ① 研修そのものの見直しを図り、新人研修とフォローアップ研修(2年目以降の継続研修)の構成とする。
- ② 資格制度を前提とした養成研修を試行する。
- ③ 研修当日の習得に限らず、事前の研修、自己学習などを行える枠組みを用意し、認定試験に関しては、認定基準を明確にした上で、環境コンシェルジュ制度を想定して、レベルアップを行う。

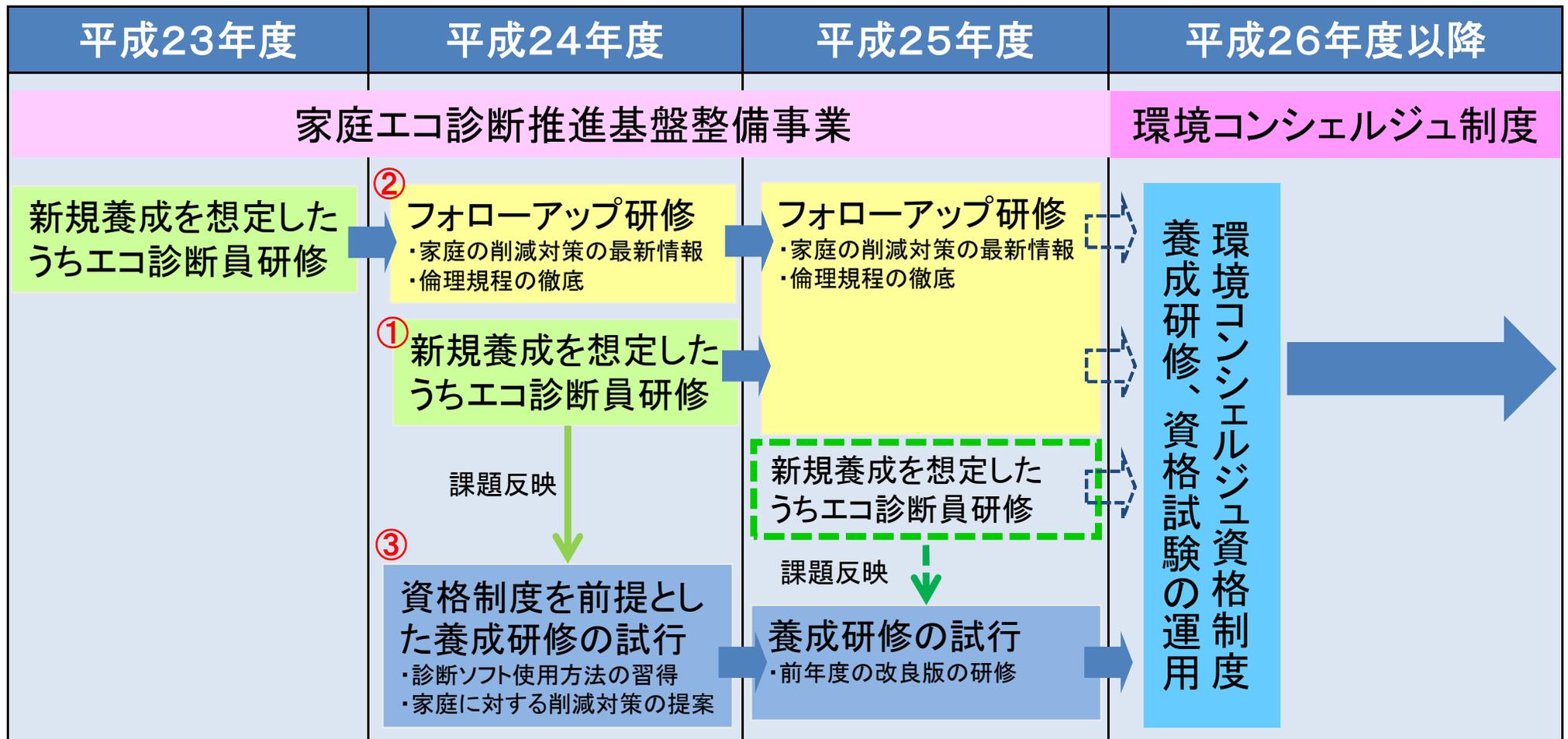


次年度における診断員の養成方針

- ① 新人研修：
診断員として認定後、診断のスキル向上のためにOJT研修やフォローアップ研修の実施する。
- ② フォローアップ研修：
診断のスキル向上のために、最新技術等に関する研修を行う。また、最新技術のフォローに際して外部講師との連携を検討する。
- ③ 資格制度を前提とした養成研修：
研修資料や診断ソフト(研修版)を事前に配布し、認定試験を厳格に実施する

2-2. ④ 環境コンシェルジュ制度に向けた研修の計画

- ・平成23年度のうちエコ診断員の養成研修は整備基盤事業の初年度であったことから、新規養成のみを実施した。
- ・次年度以降は、うちエコ診断員の追加に対しては、同様な新規養成研修を実施するを想定し、すでにうちエコ診断員となった診断員に対しては、フォローアップ研修を位置づける研修会に参加することを想定する。



2-2. ④ 次年度における養成・認定の計画(案)について

	募集～研修前まで	研修時	研修後～診断開始
①新規養成を想定したうちエコ診断員研修		<p><診断に必要な技術の確認></p>	<p><診断に必要なスキル向上></p>
②フォローアップ研修		<p>診断に必要なスキル向上</p>	
③環境コンシェルジュ資格制度を前提とした養成研修の試行	<p><事前学習></p>	<p><診断に必要な技術の確認></p>	<p><診断に必要なスキル向上></p>

3. 第一分科会における成果のとりまとめ

3-1. 本年度事業における成果のまとめ

1. 本年度の地域試行実施におけるうちエコ診断実施効果

- ・本年度のうちエコ診断試行実施において、4,662件の診断実施を行った。受診世帯1件あたりのみなし削減量で見ると、昨年度の事業と同程度の削減率であった。

2. 気候区分ごとのうちエコ診断実施効果

- ・全国の気候区分ごとの実施率の比較では、全国平均の約41%と比較して、VI地域が幾分低いものとなった。

3. 今後の診断の参考となる対策

- ・気候区分ごとに特有な対策では、暖房に関する対策提案が最も件数が異なり、地域に共通な対策として、アイドリング、シャワーへの対応が対策としては多く実施されていた。
- ・診断に参考となる対策としては、特に実施率の高かった対策(実施率44%)である「給湯」によれば、比較的広くて大きな家に対しての提案が有効であると思われる。

4. 診断員属性別の診断実績および効果

- ・診断経験が多い診断員による診断が、受診者の満足度が高く、実施率が高い傾向にある。

3-2. 第一分科会としてのまとめと今後の課題

1. 診断のプロセスの方針について

- ・全体の診断デザインを意識して、効果的な診断となるように改善することが必要。
- ・診断に係る手続きの効率化のため、手続きの一部をWEBで運用する。
- ・効果の確実性が最重要であるという前提で、受診者拡大のため、どのようなシーンで短時間（30分以下）の診断が望まれるか、効果を担保できるかを精査し、地域試行、民間試行、企業の従業員診断において試験的に導入して検証を行う。
- ・うちエコ診断となる診断ソフトへの新たな対策技術等の反映については、排出原単位の検証もふくめて、民間からの提案が行えるような枠組みを次年度検討する。

2. 診断員の養成・認定についての方針

- ・次年度においては、新人研修、フォローアップ研修、資格制度を前提として養成研修を実施する。
- ・診断員の募集要件として「対人コミュニケーション能力」「診断への積極的な参加」「パソコン、うちエコソフトの操作技術」とし、募集を行う。
- ・診断のレベルアップのために、診断のベストプラクティスを共有することができる仕組みを検討する。
- ・うちエコ診断員への養成研修項目のうち、消費者問題について内容を強化するとともに、認定後に診断員として順守いただく倫理規定と個人情報保護規定についても内容の充実を図る。

3. うちエコ診断ソフトの更新について

- ・平成24年度のソフトのリリースまでにうちエコ診断ソフトの更新を行う。
- ・診断に手続きのうち、事前調査票への記入と事後アンケートへの回答の手続きのWEB化を